定期総会
並びに研修会
－May 15th,2025－

事務職員会ニュース（Vol.1）

令和7年6月 発行

千葉県公立高等学校事務職員会

特別講演

伝えるだけじゃない 伝わることが本当のコミュニケーション

講師：有馬 隼人氏（ﾌﾘｰｱﾅｳﾝｻｰ）
bayfmで放送されているラジオ【AWAKE】のDJとしても活躍中

「伝わるコミュニケーション」をテーマに、有馬隼人氏による講演が行われました。言葉はただ発するだけではなく、相手に伝わり、やり取りが続くことで初めて意味を持つということが紹介され、対話とは「キャッチボール」のようなものであり、一方通行では成立せず、現代における言葉の省略や簡素化が、誤解を生む原因になっているそうです。

短い表現は便利ですが、背景や意図が共有されていなければ、真意が伝わりにくいという課題があります。言葉と行動が一致しないケースも見られるため、文脈を含めた理解が大切であると述べられました。

情報を正確に伝えるためには、5W1Hの活用が効果的です。会話や文書、プレゼンテーションにおいても役立つと紹介されました。

さらに、知らない話題に対しては素直に興味を示す姿勢や、相手の言葉にしっかりと反応する力が、円滑な対話を生む鍵になるそうです。

参加者からは、「言葉の使い方を見直す良い機会になった」との感想も聞かれ、日常のコミュニケーションを見つめ直すきっかけとなるすばらしい講演でした。

急遽、参加者を交えた研修もありました！

実務に活かす、知識を磨く

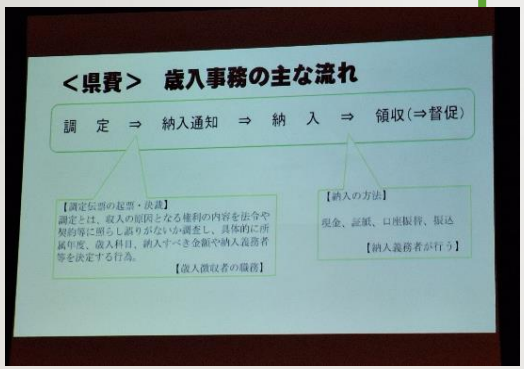
～歳入事務研修会～

教育総務課主催で歳入事務研修会が開催され、多くの職員が会場に集まりました。

講師は財務課会計指導班榎戸　祐美子班長です。

参加者は、日々の業務に直結する内容に熱心に耳を傾け、互いに情報交換を行うなど、有意義な時間を共有していました。

講師：榎戸　祐美子　財務課会計指導班長



講義の前半では、歳入事務の基本的な考え方に始まり、調定、納入通知、収納に至るまでの一連の流れを体系的に解説されました。現金収納時の注意点や領収証書の交付方法など、実務に即した具体的な留意点にも言及され、制度の概要にとどまらず、実際の事例や関連資料を交えた説明により、理解が一層深まりました。

後半では、過去の監査や会計検査における指摘事例を紹介。誤りが生じた背景や、その防止策について考えることで、正確な処理の重要性を再認識する機会となりました。早速参加者からは「自校の会計処理を見直す良いきっかけになった」との声が上がるなど、研修の効果がうかがえました。

会計処理は慣例や経験に頼るのではなく、法令や規程に基づいた正確かつ透明な運用が求められます。今回の研修は、業務への理解を深めるだけでなく、職員一人ひとりの意識と実務能力の向上につながる、有意義な研修会となりました。

定期総会「退職者表彰」

令和６年度末をもって退職された 33 名の皆様へ、感謝状と記念品を贈呈。長年にわたり事務職員会の活動を支えてこられた皆様に、感謝と敬意を込めて、その功績を讃えました。

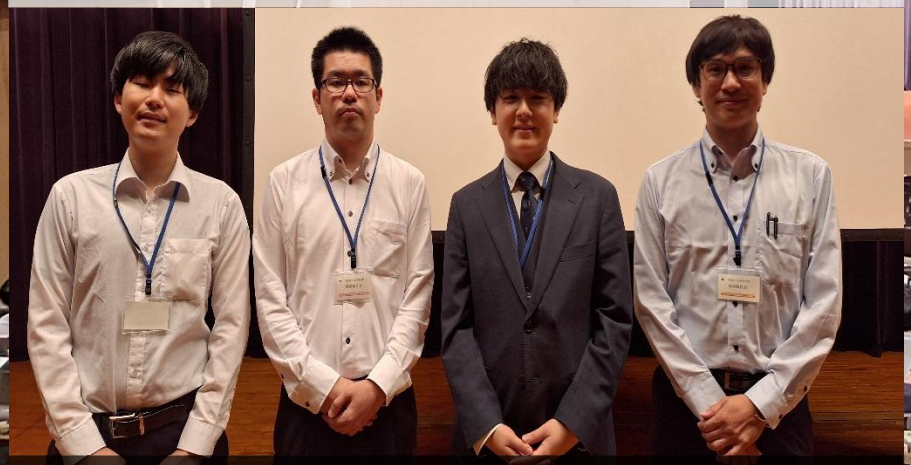
当日御出席いただいた退職者は、以下の３名です。

- 角田 良一 様(旧所属 君津高等学校)
- 庄司 弘美 様(旧所属 八幡高等学校)
- 市村 優子 様(旧所属 船橋特別支援学校)

贈呈の際には、会場内から温かな拍手が送られ、感謝の気持ちに満ちた静かな感動の時間となりました。

また、市村優子様へは、これまでの顕著な功績に対し、**特別功労者表彰**が行われました。退職された皆様の歩みに深く感謝するとともに、その御貢献を今後の活動へ引き継いでまいります。

佐原高校	柏特支	木更津高校	矢切特支
髙木 聖矢	伊藤 大志	高濱 凪	高見 洋祐



――研究企画特別委員会――

矢切特別支援学校 主 査 高見 洋祐　船橋二和高校 主 査 伊藤 祐樹
柏特別支援学校 副主査 伊藤 大志　佐原高校 主 事 髙木 聖矢
東葛飾中学校 副主査 大嶋 けい　木更津高校 主 事 高濱 凪
千葉東高校 主 事 秋山 健吾　市川工業高校 主 事 鈴木 雄河
松戸特別支援学校 主 事 澁川 和哉

第77回関東公立高等学校事務職員会 研究大会発表作品紹介

研究大会の在り方について ～これからどうする？ 今何が必要か～

研究企画特別委員会

―57 回の歴史に、いったんの区切り―

千葉県公立高等学校事務職員会では、令和 5 年度をもって「研究大会」の開催を終了し、新たな研究・研修スタイルへの模索が始まりました。

研究大会はこれまで 57 回にわたり開催され、学校現場に即した多彩なテーマで発表が行われてきました。中には関東・全国大会に推薦された研究もあり、会としての大きな成果の一つでした。

しかし近年、準備の負担や業務との両立が難しいという声が増加。「今の時代に合った、より柔軟で参加しやすい研究活動が求められている」という認識のもと、大会としての開催は一区切りとすることとなりました。

―会員の声が導く、次なるステージ―

研究大会の今後について、研究企画特別委員会では全会員を対象としたアンケート調査を実施。その結果、次のような傾向が明らかになりました。

- *研究大会の終了には概ね肯定的な反応*
- *研究活動そのものには引き続き価値を感じている*
- *「事務職員会の活動内容を知らない」という意見も一定数*

また、アンケートで多く挙がった要望は以下のとおりです

- *対面での研修機会*
- *実務に役立つ業務マニュアル*
- *他校の見学や懇親の場*
- *気軽に相談・交流できるネットワーク*

こうした声から、「研究大会の終了＝活動の終わり」ではなく、「次のかたち」を模索するチャンスとして受け止める機運が広がっています。

―新しいカタチの研究・研修をめざして―

研究企画特別委員会では、今後の方向性として次のようなビジョンを描いています。

- *負担が少なく、現場にフィット*
- *実務に役立つ具体的なテーマ*
- *交流を重視し、つながりを大切に*
- *「やりたい人がやれる」仕組み*

また、『事務提要』の活用促進や「チャットラック」等による情報共有の場づくり、さらには教育委員会との連携も進め、より実効性のある活動へとつなげていく予定です。

―“終わり”は新たな“はじまり”―

研究大会の終了は、長く続いた伝統の一区切りであると同時に、新しいステージの始まりでもあります。これからの研究・研修活動が、もっと現場に役立つものになり、会員のみなさん一人ひとりの声を大切にしながら、次の時代に合ったスタイルを一緒に作っていけることを願っています。

定期総会「組織改正及び会則の改正」

より効率的で柔軟な運営体制を目指した組織改編と会則の改正が、実に16年ぶりに行われました。ここでは、主な改正点をご紹介します。

主な改正ポイント（抜粋）

1. 組織の再編成

•これまでの「委員会」制度を廃止し、
　→ **「事務局」および「部」体制**へと移行しました。
•新たに設置された事務局と部：
　→ 事務局、研究部、研修部、情報厚生部
　（必要に応じて特別専門部も設置可）

2. 会則の改正

•役員構成の見直し
・副会長は「3名まで」→「4名以内」に変更
・常任幹事 → **常任理事** に名称変更
・幹事長、副幹事長、支部幹事、参与制度は廃止

•任期の変更
・役員の任期を「2年」→「1年」に短縮

•会議体の見直し
・旧「役員会」→「理事会」へ
・「常任理事会」も新設

新事務職員会 組織図

会　長

副会長

監　事

全国事務職員協会

関東事務職員協会

事務局
会の運営管理、総会・理事会の対応、財務処理、補助金や表彰の手続き、資料のとりまとめ、関係機関との連絡調整を担当。

研修部
全体研修、新規採用職員研修、コンピュータ研修など各種研修会の運営、支部研修の推進、県教育委員会等主催の研修会への参加・協力を担当。

研究部
学校事務の充実と職員の資質向上、事務提要の管理・編集、関東および全国の公立高等学校事務職員研究大会への参加・運営を担当。

情報厚生部
ホームページ運営、学校事務に必要なソフト管理、会員名簿の作成・管理、事務職員会ニュースの配信、会員の厚生を担当。

◆ あとがき ◆

本号では、令和７年５月１５日に開催された「定期総会」の内容をお届けしました。
これまで会報は年２回発行してきましたが、今年度からは新たな試みとして、活動の都度、事務職員会のホームページに掲載する形へと変更しています。
必要な情報を、できるだけ早く、わかりやすくお届けできるよう、会報のスタイルも見直しているところです。
形式や内容はまだ試行錯誤の段階ではありますが、事務職員会の動きや考え方が少しでも伝わるものになっていれば幸いです。
今回の会報は、いかがでしたか？
この新しい取り組みの第一歩が、少しでも関心を持っていただけるきっかけとなればうれしく思います。

情報厚生部　松戸向陽高校　坏 祐弥

御意見・御感想はこちら➡n.tktsk@pref.chiba.lg.jp（情報厚生部長　白井高校　事務長　龍野）